

## 学位授与の方針

### 国文学科

国文学科の専門科目を学び包括的な教養を高めるために、1年次の各種講読・演習、2年次の卒業論文・卒業制作等を通して、理解力・分析力などを培い、自己表現力の方法を学び習得し、自ら課題を設定し考察することなどを通して、21世紀を見通した息の長い教養を身につけることが学位授与のための指針となる。一方で、短期大学ゆえ、さらに専攻科や四年制大学編入により、より深い学びの道を歩むことも視野に入れている。ただし何よりも、多様な科目を設けて知性と自己表現力を重視している国文学科は、当然、短期大学卒業とともに社会に貢献できる人材育成に力をいれており、広い教養に裏打ちされた豊かな人間性と社会性の獲得を、学位授与のために必要としている。

### 英文学科

英文学科では、幅広い教養教育と英語、英米文学、英米文化の学習を通して、英語文化圏を中心とするグローバルな社会に対する理解と、高度な英語運用能力の獲得を学位授与のために必要としている。

### 家政学科

家政学科の目的は、教育目標である「現代社会の主体的な一員として生活できる知識・教養・技術を身に付けた人間」を育成することであり、「家政学研究(卒業研究)」の遂行を通して、総合的知見と柔軟な思考力を持ち、「生活原論」と「生活人間論」を通して、高度な倫理観を併せ持ち、また、高等教育のファースト・ステージとして、家政学の幅広い諸分野の基礎知識を修得した場合に、短期大学士(家政学)を授与する。

### 教養学科

教養学科の専門カリキュラムは、講義と少人数演習からなり、情報処理とネイティブ・スピーカーによる英語演習を必修としている。講義をとおして視野を広げ、関心を深めると同時に、少人数演習でのディスカッションにより、思考力、他者理解力、表現力と勇気を培っている。数多くのレポート・論文執筆では、調査・研究・考察する力、文章表現力を磨いている。卒業論文作成で上記の学びの成果を見定め、これを学位授与の大きな要件とする。

### 芸術学科

芸術を中心に、豊かな教養と人間性が2年間の学習でどれだけ自分のものにできたかが、学位授与を判断する基準である。そのため実技科目では、課題ごとに制作した作品をもとに行われる小講評会、理論科目では発表やレポート提出が評価の大きな対象になる。とくに重視しているのは、1、2年生を通して前・後期の最後の週に全教員が出席して一人一人の学生に対して行う講評会で、学生は半年間の成果を

作品とともに口頭で説明しなくてはならない。その集大成が2年生後期の講評会で、卒業制作あるいは卒業論文を基にして、現代社会で有用な創造性のある自由な発想をどれだけ身につけることができたかを、全教員で判断し評価することになる。

#### 現代教養学科日本専攻

現代教養学科日本専攻は、現代に生きる女性に必要な教養として、日本語力と日本についての深い理解と幅広い捉え方を獲得するとともに、愛と奉仕に生き行動する人間力、そして自らのライフステージと現代という時代を見通しながら卒業後の進路を人生の次なるステージとして冷静かつ賢明に選択できる力を身につけた者に、学位を授与する。

#### 現代教養学科国際専攻

現代教養学科国際専攻は、現代に生きる女性に必要な教養として、英語力と世界の文化・社会についての深い理解と幅広い捉え方を獲得するとともに、愛と奉仕に生き行動する人間力、そして自らのライフステージと現代という時代を見通しながら卒業後の進路を人生の次なるステージとして冷静かつ賢明に選択できる力を身につけた者に、学位を授与する。

#### 現代教養学科人間社会専攻

現代教養学科人間社会専攻は、現代に生きる女性に必要な教養として、人間と社会についての深い理解と幅広い捉え方を獲得するとともに、愛と奉仕に生き行動する人間力、そして自らのライフステージと現代という時代を見通しながら卒業後の進路を人生の次なるステージとして冷静かつ賢明に選択できる力を身につけた者に、学位を授与する。

#### 子ども学科

子ども学科は激しく変動する社会にあって、時代の要請に応えつつも物事の本質をしっかりと見極め、理論と実践を統合し、愛と奉仕の精神をもって人として確かな歩みを続けていける保育実践・子ども学研究の分野での人材の育成をめざす。具体的には、世界を多角的な視点でとらえられるしなやかな知性と豊かな感性をベースに、自分のことばで考え、表現することのできる人。また、自ら行動することを通して現在を生き、未来へとつながる生活と文化を創り出し、新しい子どものかかわりの世界を切りひらいていける人を育てる。そうした生活や文化をより豊かにしようとする実践は、他者とかかわり、協働する営みを通してはじめて可能になる。子ども学科では、自己の持ち味を生かしながら、相手の育つ力を支え、自らをも高めていき、共に育ち合う保育実践・子ども学研究の確かな担い手となる人材を育成していく。以上のような人物に学位を授与する。